

高知県南海地震条例ワークショップ実施（案）

1 ワークショップの開催、周知及び募集

高知県を 10 のエリアに分け会場毎に 50 人程度を募集します。高知県や高知 N P O のホームページを通じて公募するとともに、主には今後の広がりを考えて、これまで高知 N P O が培ってきたネットワークを活用してまちづくりに関する活動をしている市民団体や個人等やそこを窓口として募集チラシの配布や口コミによる募集を行います。また、マスメディアを通じての事前 P R を行うとともに、ワークショップ開催時の取材協力の申し出を行います。

（エリア（案））

基本的には、近隣市町村であることと地勢特性の類似性等を勘案して決定します。

安田町、田野町、奈半利町、室戸市、馬路村、北川村、東洋町
安芸市、芸西村
南国市、香南市
香美市
高知市、春野町
大豊町、本山町、土佐町、大川村、いの町
土佐市、須崎市、中土佐町、津野町、梶原町
日高村、越知町、佐川町、仁淀川町
四万十町、黒潮町、四万十市
宿毛市、三原村、大月町、土佐清水市

開催日は、参加を容易にするため原則として日曜日・祝日とします。

2 ワークショップの内容

（ワークショップの考え方）

県民からの課題、意見、解決案等を収集するばかりではなく、県民の素朴な疑問や現状認識を引き出すことを目的として実施します。

当日は、啓発コーナーを設置し、県からの提供物のこれまで行政等が実施した地震に関する各種調査・研究結果や啓発用パンフレットの展示や身近な防災用品コーナー等を設置します。

また、津波被害が予想される地域では、津波浸水施設模型の展示もしくはコンピュ

ータシミュレーションの実演を行います。

ワークショップは、8 人から 12 人程度のグループに分けてコーディネーターを配置します。

(ワークショップの進め方)

ワークショップ開催の主旨説明 (5 分)

実施されるワークショップが、「南海地震条例づくり」において、計画段階からの県民参加であることを理解してもらい、積極的な意見交換を促します。

南海地震の概要説明 (20 分)

参加者の共通認識を得るために、東南海・南海大地震に関する歴史や今後想定されることから、地震の発生メカニズムや想定される被害状況等の説明を実施します。興味を引くように、プロジェクター等を使用し視覚からの情報を重視して進めます。

グループ毎にキーワードを選択とワークショップ (70 分)

グループ内で意見が散逸しないように、事前に想定される被害状況(倒壊等の原因系、孤立等の結果系ともに)をあらかじめキーワードとして準備しておき、これらのキーワードからいくつかを選んでもらってワークショップを進めます。

キーワードをもとに・想定される災害・緊急度・重要度・予防策・事後対策・条例に織り込むべき内容等が入ったフォーマットシートを事前に作成し意見をポストイットに記入しシートに貼ってもらいます。

グループ発表 (25 分)

参加者に多くの意見や気づきを持ち帰ってもらうために、グループ毎の発表を行います。

(広報・啓発)

ワークショップに出された意見や進捗状況をホームページに掲載していきます。